イベント REPORT

現役フォレストワーカーTalk Show

2024.1.14
@日報ホール

2024年1月に新潟市で行われた「森林（もり）の仕事エリアガイダンス」内で、新潟県内で働くフォレストワーカーが林業の仕事の現状や魅力を語るトークイベントを開催しました。林業の現場で活躍する彼らのリアルな声を誌面にて再現します！

――皆さんIターンで新潟に来ました。林業の仕事に就いたきっかけは？

荻原・南魚沼市に来る前は名古屋で車のディーラーをしていました。結婚を機に奥さんの地元に来て、たまたま地元の雑誌にチェーンソーで木を伐っている写真を見て、「カッコいい！」と南魚沼森林組合に問い合わせました。

中村・テレビで五泉市の林業のコマーシャルを見たことがきっかけです。山梨県出身で山は身近な存在でした。前職がパティシエと言うと驚く人が多いですがパティシエは立ち仕事で意外と体力を使います（笑）。

安倍・東京の設計事務所で働いていました。仕事は好きでしたが終電や朝まで残業が当たり前。この生活をずっと続けるのは無理だと考えて、田舎で人間らしい生活をしたいと思い、村上市に移住しました。林業の現場を体験できる研修に参加して「カッコいい仕事だな」と心から思いました。

――現在、どんな仕事をしていますか。

荻原・利用間伐で木を伐採・造材・搬出しています。木が倒れるときは音も凄く、太い木が倒れると地面が揺れます。最初は怖かったけど快感に変わって（笑）。始めた頃よりもできる仕事が増えた今はもっと楽しいです。

南魚沼森林組合
宮城県生まれ 37歳
林業経験4年7カ月
荻原真人さん

中村・まだ新人なので春は植栽、夏は下刈り、秋は間伐作業など。今は測量をメインに行っています。

安倍・僕は主に伐採をやっています。特殊伐採といって電力会社からの依頼で、山の奥にある高圧線にかかる木を伐るときに根本から木を倒すと高圧線に当たるので、木に登って上から枝を切る作業も行います。

――林業のやりがいや魅力を教えてください。

荻原・前職ではノルマと給料のために働いていましたが（笑）、山を守るために命を懸けて仲間と協力して作業を行う、チームワークや信頼関係も魅力的です。地域に貢献できるのもうれしい。

中村・測量は一番最初に荒れた状態の山に入ります。整備が終わって、光が差し込むきれいな山を見たときの達成感は大きいです。

中蒲みどり森林組合
山梨県生まれ 37歳
林業経験1年9カ月
中村 薫さん

阿部林業工務店
神奈川県生まれ 32歳
林業経験3年9カ月
安倍直人さん

安倍・「移住したら自然の中で楽しく仕事をしたい」と、当初描いていた通りに毎日、幸せを感じながら仕事しています（笑）。精神的ストレスがありません。体力的に大変なときもありますが、仕事が終わったときには心地良い疲れになっています。

――林業への転職を考えている人にアドバイスをお願いします。

荻原・とりあえず、やってみる。まずは1回体験してほしいです。木を伐る仕事は、誰もができる仕事ではありません。こんなに面白い仕事をやらないのはもったいないと思います。

安倍・僕も、人から話を聞くよりも山に一歩入ってみると分かることがたくさんあると思います。

中村・自分は直感でこの仕事に飛び込みました。年齢が気になる人は、すぐに動いた方が体力面も楽だと思います。

――これは会場からの質問です。高い木に登って木を伐れるようになるまで何年ぐらいかかりますか。

安倍・僕は会社に入ったときから「高い木に登りたい」と思い、先輩に木登り練習の相談をしました。伐採で木に登るときはチェーンソーなどを持って登りますが、1年目は何も持たずに登り、2年目は途中まで登って枝打ち作業をしたり。3年目でようやく上まで登って木を伐りました。やりたいことを積極的に伝えていくと良いと思います。

――二つ目の質問です。林業の現場に女性が増えることをどう思いますか。

荻原・大歓迎です。心配なのはトイレ問題だけ。体力的な問題は作業分担や周りの協力で解決できると思います。

中村・うちの組合にも女性作業員がいて木を伐り、現場作業をしていました。ぜひ、女性にも参加してほしいです。

進行
林業ライター
桑原知子さん

イベント終了後、相談ブースにも登場。生の声が聞けると好評だった

現役フォレストワーカーに会場からも多数の質問が寄せられた